

恵みと真理のニュース



2020年02月の四次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

私の歩む道に共にして下さり、最高な道で導いてくださる父なる神様の愛と恵みに感謝捧げます。

私は、パンギョ聖殿で児童部の教師と青年区域長として、恵と真理教会を仕えGNTC-TVで奉仕している青年です。母も長い間、ひたすら教会学校の教師として奉仕しておられ、兄も中高等部の教師と青年奉仕宣教会の委員として我が教会を仕えています。このように、私たちの家族に大きい恵みと愛を与えてくださった神様に、感謝と賛美を捧げます。

私は生まれつきの心臓病で数回、大きい手術を受けて、生死が不透明でした。その時、私家の近くに住んでいる恵と真理教会の区域長が母を伝道しました。母は私を生かすため、藁をもつかむ心で、初めて教会に行った後、熱心に神様を信じる信仰生活をしました。当時、病弱だった私のため、非常に大変な時期を過ごしました。そんな私を通して、神様はまず、母を教会に導いてくださり、魂を救って下さいました。母について、私も自然に教会に通い、イエス様を信じ、愛するようになりました。長い時間が経った今も、その時を考えると神様の摂理と導いて下さったことに感謝を捧げます。神様が私を治療して下さいました。その後、私はどんな病氣もかからなかったです。

神様は私に音楽的な才能を与えて下さり、芸術高校に入り、進学しました。学校に入ったら、学生達の中で競争が激しかったです。また、競争率が高く芸術大学に進学があまり、容易ではないことを知りました。そうして、これから、3年間勉強を無事にし、卒業できるかと心配と不安が襲ってきました。また、個人従業も受けなければならなかったですが、家計が豊かではなかったので心配しました。通っている学校がミッションスクールだったので、本当に良かったです。学校の中で誰でも行って御言葉を黙想し、神様に祈られる祈り個室がありました。入学式を終えて初めて祈りの個室に入って祈りをしてから、これから3年間、一日も休まなくて、まずここで御言葉を黙想した後、勉

強しようと、固くに決心しました。決心した通りに実践すると、神様が私に知恵と能力を与えて下さり、恵みを与えて下さいました。神様は私の心霊を強く大胆にして下さり、先生から愛をたくさん受けられ、特に難しい実技で目立つに実力が向上して、いつも良い成績を維持するように助けて下さいました。そんな私を見て多くの友達が神様の恵みを愛するようになり、彼らに福音を伝えることが出来ました。二人で始まった朝祈り会が1年になると20名が集まる祈り会になりました。先生達が私のため、祈って下さり、大事な演奏会の練習があっても、まず、教会を優先して礼拝に参席するように私を配慮して下さいました。

高校3年生になって、大学進学のために、切実に祈る時、私が行きたい大学がありましたが、具体的にその大学に入るように祈らなくて、代わりに、「神様、主に喜びを捧げて神様を真実に知り信仰生活ができる大学に入るように祈りました。神様が、私のため予備した道に導いてください。そして、私が、願うことと違く結果が出るとしても、喜んで感謝する信仰を与えてください。」

そのように、熱心にお祈りをした後、大学入試を受けるころ、実技試験をするたびに、学校の側の大小の過ちによって、何回も不利益を受け、心から願っていた大学の進学に失敗しました。誰よりも熱心に準備した大学入試だったので大失望しました。それで、母の慰めと励ましにも関わらず、一時期、落胆して恨みまじり。今考えたら、むしろ、私にとっても感謝した結果でしたが、当時私は高慢でした。結局2順位で志願した大学に入りました。大学を回りながら、なぜ、私がここに通っているだろうか？と思うときが多かったです。

ところが、1学期が過ぎて、私は悟りました。高校3年生が始まる時から、私が神様にささげた祈りの内容の通りに神様が成し遂げて下さったことを知るようになりました。主に喜びを捧げながら信仰生活できる学校で勉強するように神様が摂理して下さいました。各種の演奏会が多い専攻の特性で、その準備で平日も遅い時間はもちろん、週末でも学校に行って練習をしなければならなかったです。この状況をあらかじめしておられる神様は、家と教会から車で15分以内にある大学に予備して下さい、摂理して下さいま

した。そうして、私は礼拝に休まずに教会学校で奉仕をすることが出来ました。世の空しい事に心を奪われなく、礼拝中心、教会中心の生活をしながら、毎日私の心を見守って下さいました。

高校と大学を芸術系の学校を通いながら、比較的により自由奔放な学校で生活をしたら、学生達はもちろん、先生と教授に至るまで理念とフェミニズム、同性愛など反聖書的な価値観を乗っている方々が注意が多かったです。そんな方々に払うことが、クリスチャンとしてとても不便で、日常的な対話さえできない時が多かったです。それで、神様にたくさん祈りました。

その時、神様は教会長の牧師の特別講義と説教御言葉を通して、青年達と宣教会で主管する様々な教育課程を通して聖書的な価値観と世界観および、正しい国家観を持つようになりました。間違った思想と観念達が、私たちの生活と社会の伝搬にどのように作用し、どんな否定的な影響を及ぼしているか分別して、聖徒らしく生活をするようになりました。教会のため北朝鮮のため、どのように祈って、どのように行動するべきなのか知ってから、正しく実践することになりました。このような過程を通してわたしは、教会学校の教師としてもっと充満な使命感と正しい知識を持って教会と国の希望である教会学校の子供達を教えて、みまもるようになりました。

今日のように充満な使命と責任感を持って教師として献身させる神様の恵みに感謝捧げます。教会のすべての子供達と青少年が成長して、国で神様の働き人として尊く用いられながら、神様に喜ばれる国で変化させる主役になることを期待して祈ります。また、神様は私に早く高校生の頃、文化芸術専門、放送局に出演するなど多様な経験と共に大学卒業後、放送局のアナウンサー経験を与えて下さった後、教会のGNTC-TVで楽しく感謝する心で、熱心に献身して奉仕するように導いて下さいました。今まで神様が私の行く道に共にしておられ、一番良い道で導いて下さいました。私に対する、主の計画と摂理を賛美します。今年は神様は私にどんな恵みを与えて下さるか、期待するようになります。父なる神様の期待に満ちた神様の子供になることを願い、全ての栄光を神様に捧げます。ハレルヤ!



【信仰コラム】

礼拝の本質

「...しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている...」
(ヨハネによる福音書 4:19~26)

キリスト人の生活とは礼拝中心であるべきで、礼拝とは聖徒達が永遠に行く光栄な義務であり、福のある特権です。従って、キリスト人は礼拝が何であり礼拝をいかに捧げるのが正しいかを知らなければなりません。イエス様とサマリア女性がスカルの井戸で交わった対話の中に礼拝が何であるかに対する核心的な内容があります。本文の御言葉を中心にして礼拝の本質と意味に関して調べてみます。

第一、礼拝は教会と聖徒の最も重要な使命であり本文であります。

教会の役割と使命には礼拝、伝道、教育、救済、奉仕、親交等があります。このようなことは教会の存在理由と目的です。その中で礼拝は教会の最も大きい使命で本文であり、人間の存在目的で理由です。アダムの墮落によって人間はその本文を離脱して無神論者になったり偶像崇拜者になってしまいました。律法の呪いの下に置かれて地獄刑罰を免れなくなりました。しかし誰でもイエスキリストを自分の救い主として信じて迎接だけすると罪の許し得て正しくなり神様の子になり

ます。そして神様を礼拝するようになります。神様を礼拝することは聖徒達に第一の本文です。

第二、礼拝する者が礼拝を通じて求めて表現することが何であるかを調べてみます。

礼拝者は礼拝を通じて神様が行われた事と施された恵みに対して聞いて心に刻み信仰の深さを加えます。神様が私達を救うために行われたことに関して教えて聞きながら心に深く信仰で答えるのが礼拝です。礼拝する者は礼拝を通じて神様に向けた喜びと感謝を表現します。神様が施された恵みと聖徒達が将来享受する光栄を考えて中心から湧き出る感謝と喜びで賛美してまた、捧げ物を捧げます。礼拝を通じて神様の絶対主権を認め、神様が福を下さることに助けを求めます。礼拝は救われた人がすることであり、救われた人だけが出来る極めて福のある義務で特権です。

第三、礼拝の本質を調べてみます。

イエス様とサマリア女性との対話の中で礼拝の本質ではないのが何なのかというのが表れています。場所は礼拝の本質ではありません。礼拝儀式も礼拝の本質ではありません。サマリア人は彼らがエホバを礼拝すると言うが、実は混雑になった信仰、変質された信仰を持ちました。神様に対する無知の中で行う礼拝儀式は礼拝になることができません。イエス様は続いて礼拝の本質を言われました。「しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時

が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。」

この御言葉には自然界の物質や人の手で作ったある形像を礼拝の対象に扱ってはならないという意味があります。礼拝の本質的な要件は霊と誠です。霊で礼拝するという御言葉は「魂で」礼拝するという意味です。誤りと罪で死んだ状態にあった霊がイエスキリストを信じると新たな命を得ます。聖霊で生まれ変わった霊を持った人ではないと神様を礼拝することができません。「誠で礼拝する」という御言葉は「真理で礼拝する」という意味です。真理は神様の御言葉でありました、イエスキリストです。神様が喜んで受け入れる礼拝は聖書の御言葉による礼拝また、イエスキリストの中での礼拝です。簡略に言うと、「霊と誠の礼拝とはイエスキリストを信じて生まれ変わった霊を持った信者が、真理でおられる聖書の御言葉とイエスキリストの中で、聖霊様の臨みと交わりによって捧げる礼拝」と言えます。

皆さんは、霊と誠の礼拝に対する充分整理された知識を持った人、礼拝が優先である人、礼拝生活の誠な楽しみを知る人として多くの人々を霊と誠の礼拝を捧げるよう導くことをするよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

イエス様の心を動かした カナアンの女



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

ガリラヤの地方は、イエス様が主に活動した舞台でした。ある日、イエス様はガリラヤを離れ、港町であるティルスとシドンに入りました。ガリラヤの湖から60キロくらい北に位置している地域です。イエス様の公生涯の期間にパレスチナの他の異邦人の地域に出たことは一度だけでした。その理由は明らかにされなかったですが、たぶん、ユダヤ宗教の指導者たちとの高調された緊張の状態を離れた後、休んで新しい活動を準備するだめでした。しかし、本文の事件の内容を調べてみると解決できない問題をもっていました。イエス様に出会う機会を求めるだけでなく、素晴らしい信仰を持っている異邦人の女性に恵みを与えるため、異邦の地域まで旅したと解釈しても無理ではないでしょう。

ティルスに行かれたイエス様がおられるところにカナアンの女性が近づいて来ました。この女を本分は、「カナアンの女であると言われました。同一な事件が記録された、マルコによる福音書では（マルコによる福音書7：24-30節）には「ギリシア人でシリア・フェニキアで生まれた人だとしました。ギリシア人とは、ギリシア地域に居住する者、ギリシャ語を使うもの、ギリシャの文化の影響を受けた者だ」という意味が含まれています。ユダヤ人と区別するため、異邦人を示す表現でもあります。」シリアフェニキアとはシリアに属したフェニキアということの意味します。今日の本分は異邦人がイエス様の心を動かした事実の記録です。今日の本分に登場する、異邦人であるシリアの女の言葉と行動がどうして、イエス様の心を動かしたのか調べてみます。

シリア・フェニキアの女は、イエス様がティルスに来られた事実を知ると、イエス様に走って来ました。

そして、「主よ、ダビデの子よ、私を憐れんでください。娘が悪霊に酷く苦しめられています。」と叫びました。女は、イスラエルの民が希望を持っていたメシヤが、ダビデの子で、この世に来られることが、聖書に予言されたことを知りました。また、女はイエス様に対するうわさを聞いて、イエス様が「メシヤ」だという結論を得ました。したがって、女はイエス様を、「主よ、ダビデの子よ、」と叫びました。主よ。という呼称の聖書の言語とは神様に対することです。「ダビデの子孫」は聖書に予言された。「来られる方」としてメシヤと示します。彼女はたとい、異邦人の女でしたが、ユダヤ人の宗教指導者が持ってなかった知識と信仰がありました。女がこのような知識と信仰を持ったから、女に与えられた絶好のチャンスを掴んだわけです。

シリア・フェニキア女は苦痛を受ける娘と自分を同一に思い、切実な心でイエス様に哀れみを求めました。女は自分がどんな資格がなかったのを知ったから、ただ、イエス様の性品である憐れむ心に訴えました。

ところが、女が切実に癒しを求めましたが、イエス様は一言も答えませんでした。女が繰り返して叫ぶことを見た弟子たちは、イエス様に来て要請しました。「この女を追い払ってください。叫びながらついて来ます。」その間、シリアの女はイエス様のところに近づきました。その時、弟子たちはイエスから予想しなかった答えを聞きました。イエス様は、「子どもたちのパンを取って、小犬たちに投げてやるのはよくない」とお答えになりました。イスラエルの民は「イスラエルの家」の羊で呼ばれる民でした。このことは、選択された国に対する栄光な称号です。ところが、実際にイスラエルの家は失われた羊になりました。霊的に墮落した状態にあったからです。イエス様の御言葉が、誰が聞いても異邦人の女には、もうこれ以上、願われないように拒否する意思表示でした。

それにも関わらず、女はイエス様の前にひれ伏して「主よ、どうかお助けください。」と訴えました。答えがないことは断る意味で解釈されます。冷静で不愛想でもカナアンの女の熱情をさめられなかったです。カナアンの女はイエス様が「主であり、ダビデの子として呼ばれるメシヤであることを信じたから、敬拝の行為でひれ伏して、。憐れむ心をもめました。

この女にイエス様が、続いて言われた言葉は非常に衝撃でした。

「子どもたちのパンを取って、小犬たちに投げてやるのはよくない」とお答えになりました。ここで「子」はイスラエルの民を示す言葉で「犬」は異邦人を示す言葉です。誰でもそのような話を聞くようになると、本当に気分が悪くなります。ところが、驚くで奇異なことです。女は、イエス様の話を聞いてすぐ、答えました。「主よ、ごもつともです。でも、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただきます。」としました。カナアンの女は、イエス様のすべての事が、普通に耳えませんでした。イエス様の態度と音声に目を傾きました。そして、イエス様の御言葉で積極的に求められる良い条件を探しました。「子どもたちのパンを取って、小犬たちに投げてやるのはよくない。」という御言葉に使われた「犬」という、用語は家で飼う小さい犬を意味します。主人が飼う犬は 家族が食事をする時、食卓の下で待ちます。子供達が、食べた後、犬が食べるようになります。食事をするとき、パン屑が食卓に落ちることがあります。ユダヤ人の食事は手でちぎって食べるから、パンくずが落ちます。そればかりではなく、子供たちが食事をする時と落とすからです。そして、子供たちの食事が終わらなくても、犬は食卓の下でパンのくずを食べられます。カナアンの女はこの点を思い出しました。賢くて、センスがありました。

カナアンの女は「主よ。そうです。私を主の家で愛を受けて、犬に比喻して下さり、感謝します。犬が主人の食卓で落ちた、パン屑を食べることが許可されているように、私にも主から受ける、治療のパン屑をください。そうしたら、娘は治ります。という意味で答えははずです。女の行動と答えには熱情と積極性がよく現れています。機会を掴むためには、このチャンスを逃さず、自分のものにした人です。それだけでなく、謙遜な性品を持っています。いつも神様に向かって、謙遜な心と信頼性をもって、私物を分別をする聖徒は問題と共にいる答えを発見することが出来て、苦難の中で、蜂蜜をとれます。

障害物も乗り越えられます。このような人には挫折と絶望がありません。カナアンの女はイエス様の態度と御言葉を徹底的に肯定する姿勢をしました。善く受け入れました。疑問や反対がなかったです。「どうしてですか。」と聞かなかったです。シリア・フェニキアの女は「信仰の先祖」（ローマ書4：11）アブラハムは、割礼を受ける前に信仰によって義とされた証印として、割礼の印を受けたのです。こうして彼は、割礼のないままに信じるすべての人の父となり、彼らも義と認められました。シリア・フェニキアの女はの話を聞かれたイエス様は、「あなたの信仰は立派だ。あなたの願い通りになるように。」そのとき、娘の病気は癒されました。」と記録されています。イエス様が寝めたのは、シリア・フェニキアの女は「信仰」があつて、また信仰の言葉がありました。女のすべての言葉と行動が信仰から出ました。彼女の切実な訴えと、熱情、忍耐、謙遜、知恵ある判断と行動が全て信仰から出ました。

今まで調べてみた内容の要点を整理しましょう。

第一は、シリア・フェニキアの女は、イエス様に対する神霊な知識がありました。第二は、機会を掴んで、積極的に行いました。第三は、イエス様の答えがないと、もっと力を尽くして求めると言う意味で理解しました。第四は、忍耐を持っていました。第五は、イエス様の態度と御言葉に対して疑問と反対がありませんでした。「どうしてですか？」と聞かなかったです。徹底的に肯定的で、善く受け入れました。第六は、信仰で満ちた言葉を言いました。

聖徒の、皆さん

イエス様がシリア・フェニキアの女に向かって「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願い通りになるように。」その時、娘の病気は癒やされた。」という御言葉をするときの姿を想像してみましょう。明るい表情で、お話しするイエス様の姿が見えるでしょう。イエス様は、カナアンの女のセンスあつて、慎重で謙遜な答え、このすべてがイエス様に対する徹底的な信仰から出るのをご覧になって、感激されたでしょう。カナアンの女はイエス様の心を動かした人になりました。カナアンの女は、イエス様を喜ばして、イエス様は、女に幸福を与えました。愛する皆さんは、今日聖書の本分が教える教訓を心深く思って皆さんの人生に適用して、神様の心を動かす、聖徒になるように願います。